

令和6年度 学校経営計画書及び学校評価計画書

かほく市立七塚小学校

校長 稲垣 優子

1 経営理念

- (1) 安心して過ごせる安全で楽しい学校
- (2) 児童個々が存在を周りから認められ、集団の中で個性を発揮できる学校
- (3) 児童個々が生き生きと活動し、知・徳・体のバランスのとれた成長ができる学校
- (4) 教職員個々が仕事に誇りを持ち、役割を全うすることで社会的責任を果たし、その自己実現をかなえる活力ある学校
- (5) 家庭や地域と信頼関係を築き、一体となって活動し、その願いに応える学校

2 教育目標 「自ら学び、心豊かにたくましく生きる七塚っ子の育成」

3 中・長期経営目標

- (1) めざす児童像
 - ア よく考え、進んで学び合い、自己実現できる子【知】
 - イ 心豊かで、思いやりのある子【徳】
 - ウ 健康な心と体で、最後まで粘り強くやり遂げる子【体】
- (2) めざす教師像
 - ア 子どもの人間形成にかかわる使命と職責を自覚し、常に自己研鑽に努める教師
 - イ 子どもの思いを受け止め、子どもへの働きかけを惜しまず、子どもの成長を共に喜び合える共感的な人間関係を築く教師
 - ウ 授業力・指導力を高め、専門職として子どもの確かな成長を保証する教師
 - エ 子ども、保護者、地域から信頼を得られるよう努め、連携して児童の健やかな成長を目指す教師
- (3) めざす学校組織のあり方 ～ チームとして機能する職員集団 ～
 - ア 経営ビジョンに沿って、計画的・組織的に動き、RPDCA サイクルに基づく実践を推進する学校組織
 - イ リーダーを核として、教職員一人一人が自らの職責を果たし、組織的、機動的に運営する学校組織
 - ウ 職員が目的を共有し、情報共有と協議、報告・伝達の設定しながら共通実践していく学校組織

4 学校の現状

- (1) 児童の実態
 - 明るく素直で、優しく接することができる
 - 言われたことは素直に行える
 - 子どもらしく活動的である
 - ・筋道立てて考える力や読解力が比較的弱い
 - ・思いを伝えたり表現したりすることがやや苦手である
 - ・自己肯定感や自己有用感が低い児童が見られる
 - ・家庭環境の多様化に伴う生活スタイルの乱れが見られる
- (2) 学力の状況
 - ア 特定の学年では特に基礎学力の定着が課題である。校内研究「授業後半の充実」に即した授業改善をはじめ、補習学習や自己肯定感の育成、基本的な生活習慣の定着等、引き続き総合的に取り組んでいく必要がある。
 - イ 学習指導力の向上（授業力の差を縮める）に向けて、組織的に「つかむ・揃える・確かめる・やりきる・生かす」ことを意識し、何をどこまで、どうやって取り組むのかについて明確にしながらRPDCA サイクルを回していく必要がある。
- (3) いじめ・不登校の状況
 - ア いじめに対する職員の高い意識は児童の意識にも反映している。今後もタイムリーな情報の共有と迅速で組織的な対応に努めるとともに、授業の中での生徒指導を更に具体的に実践していく必要がある。
 - イ 昨年度、不登校児の改善が相次いで見られたが、3学期には家庭環境や震災の影響で新たに学校への不安から登校を渋る児童も見られ、まだまだ個別の対応が必要な状況である。当該児童の特性について専門家の知見も踏まえながら保護者と共有し、連携して個に寄り添いながら対応していく必要がある。
- (4) 生活面の状況
 - ア 口腔内の課題は保護者を巻き込んだ取組により改善しつつある。
 - イ 高学年のゲーム依存児童の割合は市の平均を大きく上回り、大きな課題である。それにつれて、学習時間や睡眠時間が圧迫され、生活リズムを崩し不登校傾向や学業不振にも繋がっている実態が認められる。生活改善指導や学習指導など、個々に寄り添いながら保護者と一体となった指導を行っているが、更に多方面からの指導を模索していく必要がある。

5 カリキュラム・マネジメント

(1) カリキュラム・マネジメントの柱

「主体的に考え、表現する児童の育成」～「行きたい、行かせたい、行ってみたい」魅力あふれる学校を目指して～

(2) 現状

ア 児童

- 素直で、言われたことはきちんとできる子が多い。当番活動や掃除など進んで動くことができる。
- ・やや指示待ちになりがちで、自分の意見を積極的に主張したり表現したりすることは苦手である。

イ 教師

- 授業・教育活動全般において、自分で考えさせることを大切に指導に取り組んでいる。
- ・主体的、対話的で、深い学びの実現に向けた授業改善を進める中で、児童が自ら学習課題や学習活動を選択したり、自主的・自発的な学習を工夫したりしていくという視点がまだ弱い。

(3) 取組内容

- ア 全教育活動を通して、知る・任せる・認める・ほめる」を根底に置き、利他の心(思いやり)を育てる。
- イ 学年に応じたためあてと振り返りを大切にし、自分がどのように取り組んだのかを自己評価したり、友達との相互評価でのよさを価値付けたりすることで、自己肯定感や自己有用感を高める
- ウ 学力向上、保健安全、生徒指導、特別活動の4部会の目標を「学校グランドデザイン」に取り入れ見える化を図る。さらにGIGA、働き方改革という二つの今日的な課題を加えた六つの目標を学校評価項目と一致させ、R P D C Aサイクルを回しながら、ベクトルの揃った、効果的・効率的な教育活動を目指す。

6 短期（今年度）経営目標と取組内容

(1) 主体的に学び合う子の育成 【学力向上部】

ア★「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」に向けた組織的計画的な授業実践

- ◇校内研究の充実（取組の焦点化，研修の充実，組織力の強化，授業構想シートの活用）

イ 学び合いの基本・基礎学力の定着

- ◇「大きく・話す・反応する」力の育成◇帯タイム学習，家庭学習の充実等による基礎学力の育成

ウ 学力調査等の分析から分かった自校の弱点の補充とその検証(学力向上プラン)

- ◇活用力のトレーニング，丸囲み・線引きの取組，独自の検証問題作成と結果の還元

(2) 自ら考え、健康・安全な生活を送ろうとする児童の育成【健康安全部】

ア 健康的な生活習慣を定着させるための取組（保健・掃除・給食）

- ◇授業参観や便り，すくすく集会，PTAによる啓発，必要に応じた指導の充実

イ 安全への意識を高める指導と危機管理能力の向上（防災・安全）

- ◇児童保護者への啓発活動と状況把握，必要に応じた個別指導の充実

(3) 自他の違いを認め合い、お互いを尊重し合う子の育成【生徒指導部】

ア 自分から進んであいさつする態度の向上

- ◇児童によるあいさつ運動の実施，生活目標の重点月の設定，「あいさつ名人」カードによる指導，教師による率先

イ★相手の気持ちに寄り添い、思いを伝い合える人間関係の育成

- ◇生徒指導の視点を生かした学級づくり，生徒指導の視点チェックシートを活用した授業づくり

ウ★思いやりの気持ちをもって、相手の考えや立場を受け止める心の醸成

- ◇帯タイムでのソーシャルスキルトレーニング，SSRやSC，相談員等との連携，情報共有タイムによる組織的対応

(4) 自己決定し、チャレンジする力の育成【特別活動部】

ア 児童の興味関心を重んじ、ルールを踏まえながら自発的・自主的活動の推進

- ◇委員会、縦割り活動グループ等を通して実践する、児童の柔軟な発想を生かした創造的な活動

イ★互いのよさや可能性を認め合い、伸ばし合い、よりよく成長し合える集団づくり

- ◇行事、縦割り班活動や委員会活動での目標や振り返りの機会の設定による自己有用感の育成

ウ 運動に親しむ場の設定

- ◇げんきざっデーの取組の充実，縄跳び運動・スポチャレの取組の推進，体力テストでの弱みを意識したイベントの設定

(5) 学習場面に応じた一人一台端末の効果的な活用【GIGA】

ア 授業のねらいをより効果的・効率的に達成するための研究・研修

- ◇ビジョンの共有と組織的運営，研修の計画的実施，実践状況の把握と個別指導の充実

(6) 教職員の働き方改革の推進

ア 教職員の時間外勤務時間の削減への努力

- ◇効率的効果的な働き方を意識した業務内容の見直しと健康管理意識の高揚，組織的な校務改善の対策（定時退校日，学校閉庁日等）

イ 改善への取組と保護者や地域への理解・協力の周知

- ◇学校CNや教員業務支援員（SSS）等の積極的活用